

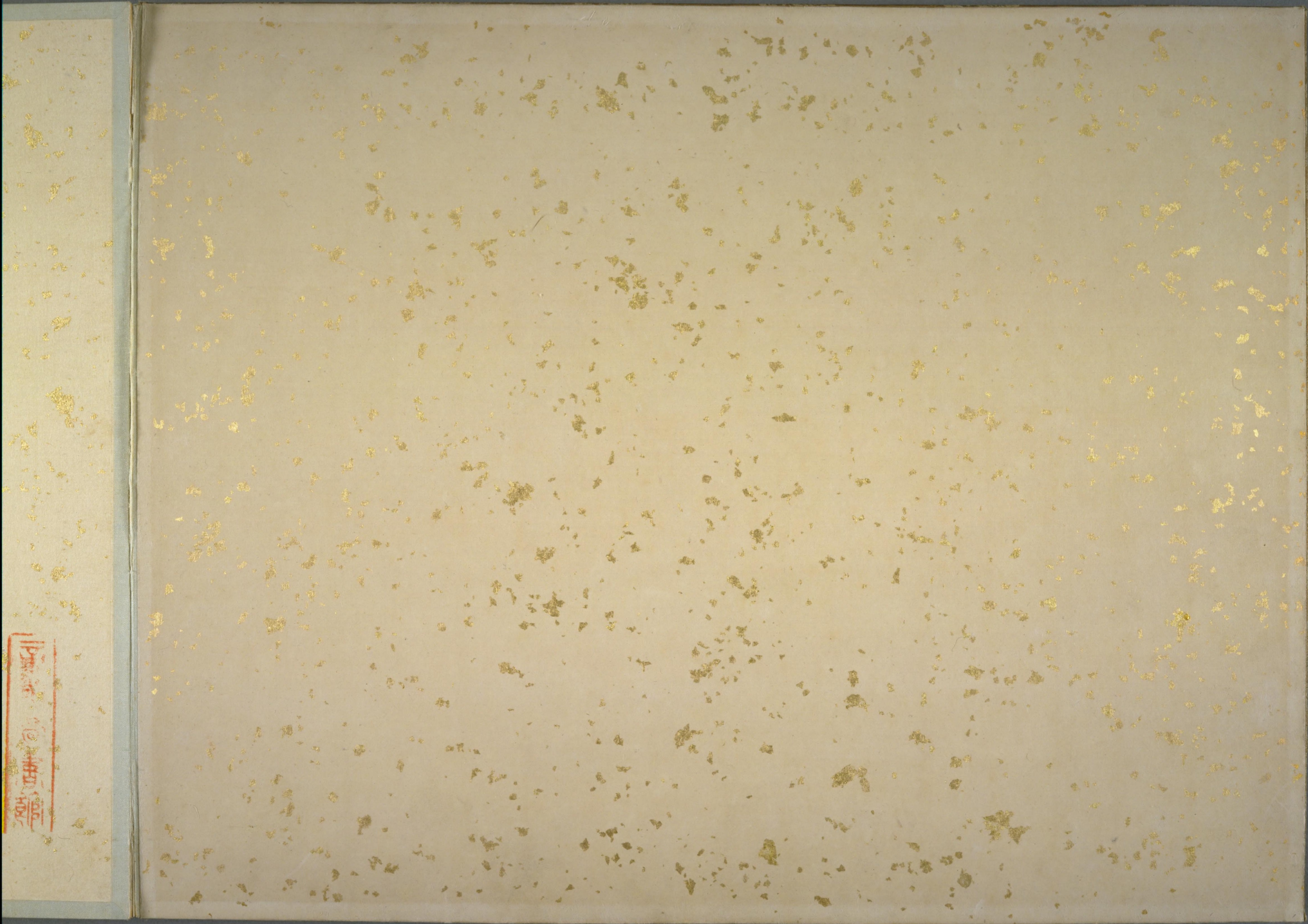
幕府年中行事 1帖 WA 3 1 - 1 6

0 0 - 0 0 1

幕府年中行事

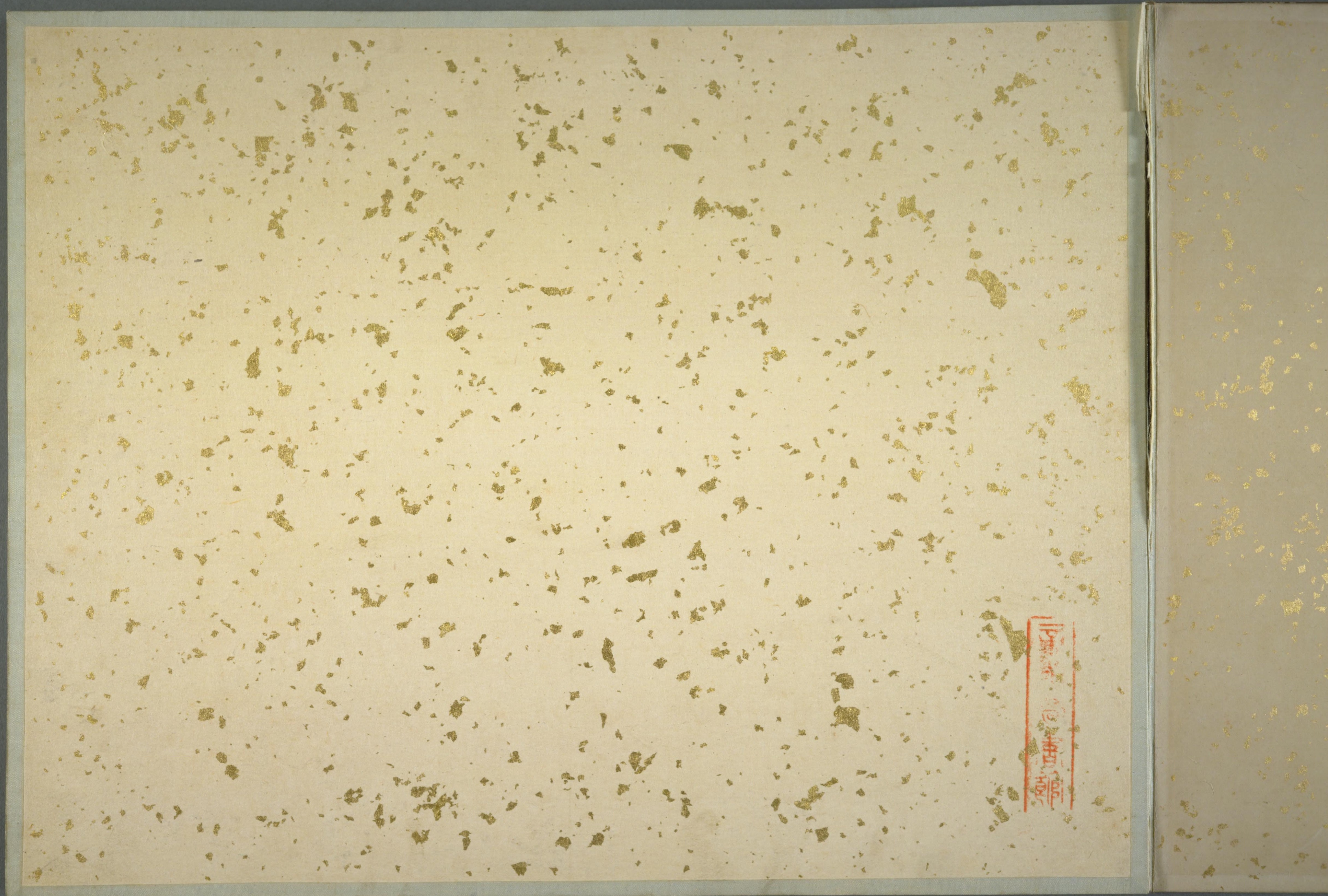


国立国会図書館



Vertical red stamp on the left edge of the page, containing Japanese characters.





幕府
 年中行事
 一帖





謡初

謡初と申は是利家よりその時佳例と如
 あらむにその夜之家の御と、同僚源清氏の大也名
 皆出仕して大座間と座をつね國主外様の中にも
 例あらざるは其の座と列と之家のりく、よからけ
 陽ひすん流まきつ若座の面と及中少将侍院の筆に
 こゝろに右出てお怠たるは、出仕の太山右夜夜の
 筆もまよひ流まきとまきまよその間様繁三番
 あり事とく、観世とけ、元三座のよのよこさく
 一ひさしとかけ、やうそ是を若く三人お
 つれ弓矢の五合をまよる、けりぬれを、御所
 へ、まきぬとく、まきぬ宿老是をまよ、侍つて
 観世、あたふ此のとき、之家の御と、を初め座
 列と御、かたまぬとく、入法の後、之家のりく、
 宿老とて、禮あり、若座の令各ひ、けり、まき、
 ふま、そのり、まき、のり、若、座、の、和合せる、昇
 子の世は、そのり、城、入、に、掃、く、元、二、日、お、ま、
 承夜二年より、御所、乃、沙、母、若、の、忌、日、城、ま、け
 り、け、三、日、の、夜、ま、改、め、り、
 歌





弓場始

弓場始ハ正月十日ノ吹上ノ弓場ニテ新
 々射子十人折馬帽子水干に着袴着皆
 けきて左者より初り出て座より小細戸の上
 御座色紙より小笠原某に傳れハやく武代
 弓左中先立三人ヲ立付けしめ射的といふ矢申の役
 々也この中某と射的をりし事けし御座より右
 今此禄より各紅の裏付々呉指つま子をわけ
 らぬこれ肩よりおつけをかつ一矢を射換
 りぬとのまのけけしものなりけしは小笠原
 某に呉指某射子の輩もこの子を賜ふ
 うれハ享保の村鐘倉室所の例にけし
 定の初まり一所あり





馬召初

馬召初冬むつきのけい免喚上
 もくくを柔の馬場とありて終り
 此の事うちをさすけきる小納戸
 の上その馬ひつて急はる
 向ひぬまをやか事めき終り
 事けく、涉厩乃月月禄を
 たすり





紅葉山御詣

紅葉山御詣ハ正月十七日なり時日の夕よりさうり
 清きさうりありあやしきしきりきりもあつれ
 ころそのハ城の肉々入事城やあつれ西の
 所所もよさうりさうりしきよまうりあり御立
 急ほうしとめされはちり柄とさうり紅葉山の御宮ま
 訪てさせやハ帝鑑問所の間菊の留の大名その外
 五位のともかく大紋ハ鞠巻の太刀はさうり侍を
 物影門ハ長柄おと程楽人ハ音楽と奏す
 輪王寺の宮内陣よつきて御手ハ紙きけ紙ハ
 高家の人と神酒とさむ三家の方におろし揚る
 御鏡の餅ハ厚の間如大名武人持出て御前より中
 三家の方こも御禮あり此日三家の庶流國之の
 向と皆ありかめ参りて迎へたる五月九日又
 御





寺社の参観

寺社の参観
 正月六日、西風折
 属帽子法衣、無縁者、ひあられ、袴衣、太鼓
 と、着、白木、寺、法、衣、て、増、寺、大、徳、正
 を、け、め、福、禮、の、寺、院、山、王、の、寺、目、か、く
 出、る、寺、く、寺、ま、を、の、ふ、後、寺、廣、寺、り、渡、神
 け、て、諸、國、の、寺、社、山、伏、お、の、拜、祭、と
 う、寺、り、る





勅使饗宴

勅使管宴八年毎一禁裏仙洞中宮
 東宮より勅使とて上達部とらされて宋を
 賀せし二月三月の間此の事あり所たいめの
 日はあつ所は直垂を召されふ事院より
 出させ給ひて其の式あり勅使の人々各
 大内より賜あまて出づ所は進む者目の姿
 ひくき袴衣大紋袴と着せりさへ大内右の
 袴甚しき様樂興りされ要御廣蓋の
 事あり此の日白晝院よりあるまふけ
 有る七五三の管儀を出され奉ら基を
 たまふ出仕の面々これの一絶長
 袴と着せり





追鳥狩

追鳥狩は三月の末駒場野に成
 せたきひおほくの雉を追出さしめ
 隊位を分ちかけひきすすまへてを
 追ふは此の日五番の頭組を引あ
 せしは直正はまへよりいそがし
 此の事享保の頃修ふさし
 かこのころ秋の鶉狩なりあま
 久々追ふるも今の御代よま
 おこさるるもいそがし
 ひなり

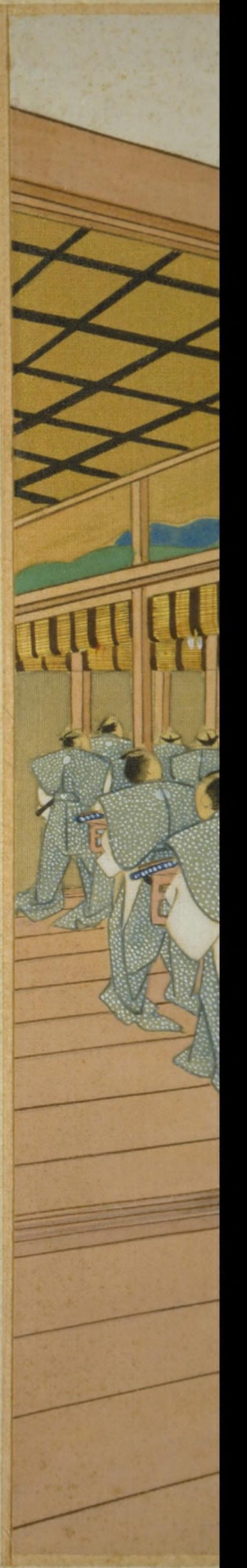






八朔参賀

八朔参賀ハおのゝ白き麻衣ニ長袴悉
 て出仕一三家の方ニ湯詰宿老の人々
 白書院より悦びを述べき國主より譜代
 外様の面々ハ方廣間より拜賀す此の日
 太刀折紙を就き事元日よおる一今日も
 官位よおる一以福二千石以上のともから
 皆参りて参りて此の事は知くさうゆえ
 一こゝりわく干戈治を御代志らるゝめ
 参る日あれハこゝろさうに祝ひこゝち
 たりし一とんとし人あり







清本丸
成右茶間



煤拂

煤拂を志すすの十二音の如年
 男の志すの 絶長袴 とい
 ましとと海の上きんよはきを
 へしとと竹うう 糸の、中の
 袴ととと花まきうひうあう
 けふととこれのしめ半袴を
 着せり





門松

門松を十二月廿九日、津城の内外所々
 清つ茅を建て、新竹を葉を去り、茅
 竿にひきくさす是を、之河を竹たを、
 竹を、冬を、せまき、海草を、以て、
 打へ、世に傳ふと、元龜の、以、濱、松、あり、
 武田信玄と、對陣の時、敵、祭、藏、旦、の
 發、白、と、く、さ、く、く、紙、祝、ひ、ふ、外、の、心、小
 さ、く、の、事、を、い、死、の、く、く、を、く、紙、酒、井
 右、次、承、り、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
 發、白、と、清、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
 く、祝、ひ、直、く、く、く、く、く、く、く、く、
 い、誓、あり

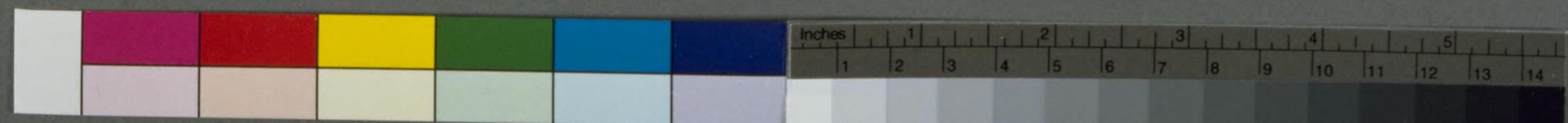




學問試

學問試を三年に一度之く見所と於て
 試する四書七經小學と經科と左國
 史漢通鑑のたぐひと史料と一編書
 和雜又策論此文をも併らめ殊々
 回務策をもまゝあつておわやけ事小なり
 ころつたええのはをを 試する事終る事
 儒臣の輩相付けたり甲乙を定めその長り
 従ふ禄を賜ふ事其年終正月よりやよい
 まくの間にあき又年々小正雜本正家人
 の子弟十七より十九とあるもの、四書
 五經小學を讀み終る試學問所と名試
 其の甲乙をさしめ禄をさしめと賜ふ
 こゝけらぬあ架





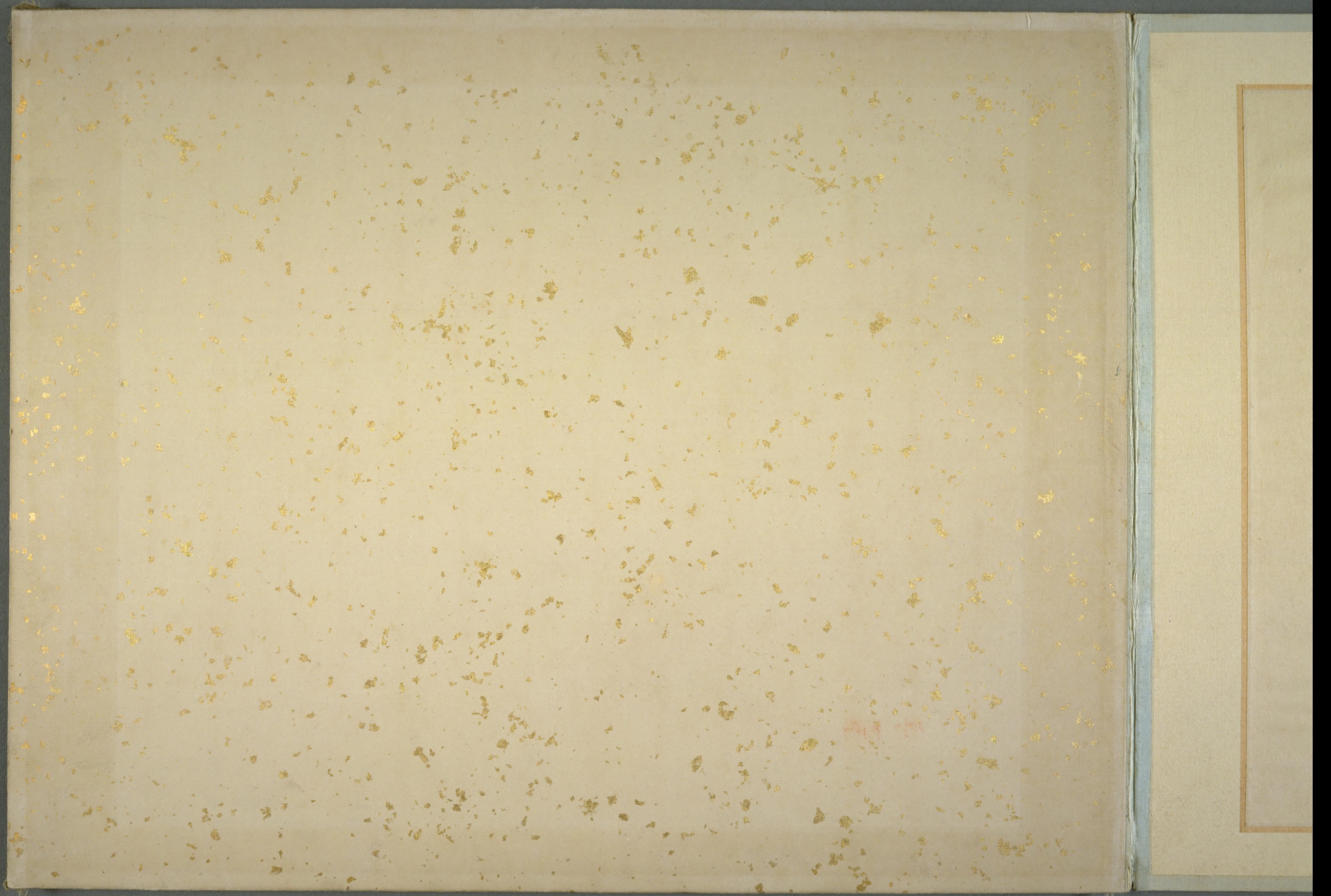
右年中行事繪く帝國大學の圖書館にひめおろす
 のりく江戶將軍の家士形事け井原某の畫ありぬ
 季と海正目と見つるはゆきりのせよかよき葛飾此齋の
 門人より師の筆で張堂の得よれ當分のてつをよすはに
 うけし出たる後に傳ふるふよとのそとくおのれに描寫
 せしりれいぬのむすにびく繪うたなり詞畫に注し
 文政のころはひ山村季文手巾切事西冬歌合とよみをと
 おを松平定信船中詞を堀田正敦相伝にひたれ
 事お撰るまきりなりと撰りて其のころより
 正まきりて文政文にそはさうとくく勉てきま
 さしものそそとくに抄出たるは畫と詞と成ありて
 はるかにさしりしは蘇のそは海志ひかんまき門松
 町入法能の詞畫の本畫ふありは直種とわたりて
 見聞つる事しりてさなりふ加けし直種とわたりて
 事しりしは直種とわたりてあまはひりめ類のそま
 あまはひりめ類のそま

明治三十一年二月廿七日

將 野友信

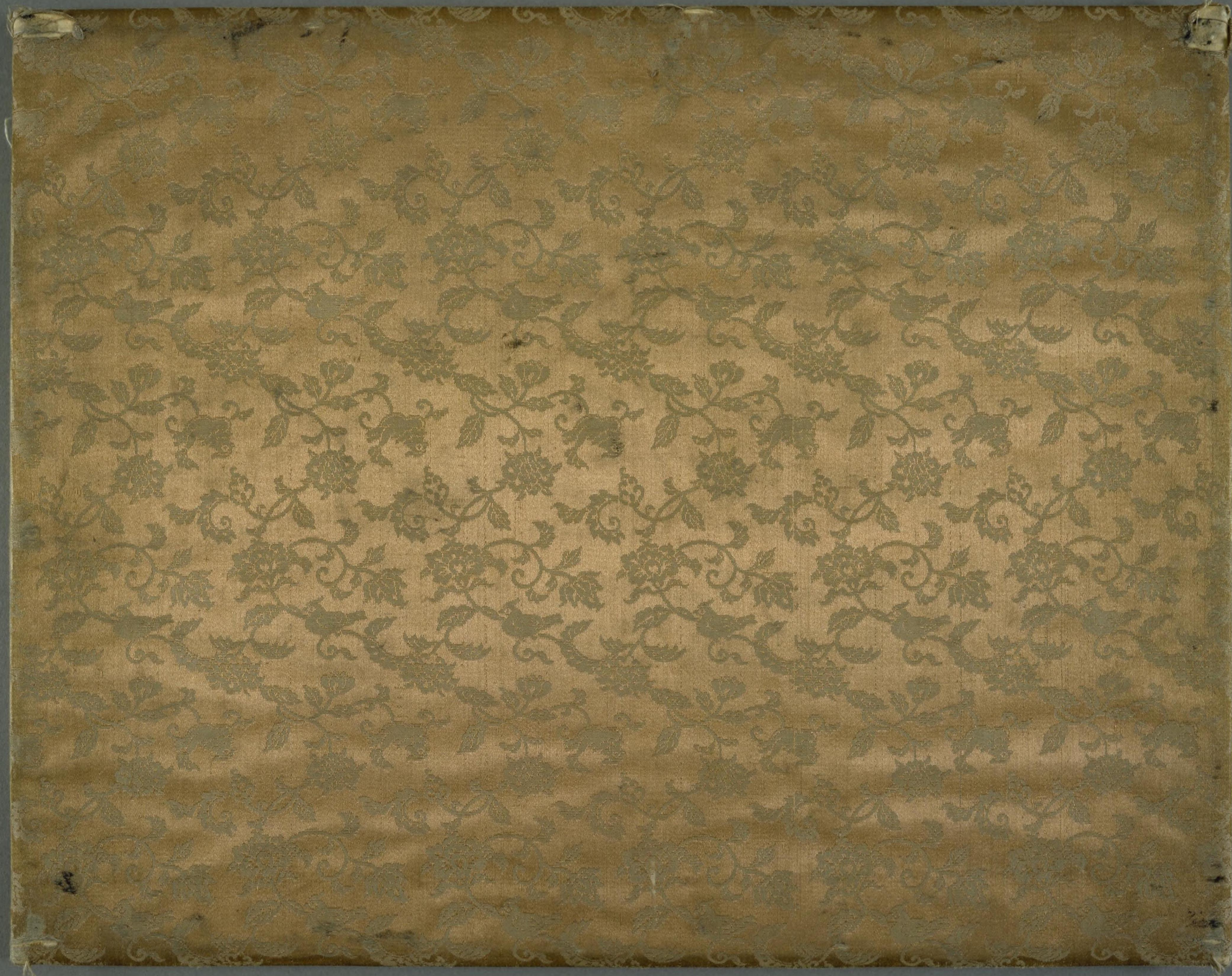
加藤 直種





幕府年中行事 1帖 WA31-16

00-034



国立国会図書館